

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

平素よりお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

2015年試験栽培について

- 1) 今年の情報量が多い
- 2) 様々な角度からの分析が必要
- 3) 2~3年後の主力品種
- 4) 4~7年後の主力品種
- 5) コンディション別球根の捉え方をさらに一步進める
(見方をそろそろ変えてみてはどうでしょうか?)

2014年産 南半球産試験栽培

岐阜県揖斐郡池田町におけるテスト栽培

- 1) 14年産南半球産(N.Z産+C.H産)は、掘り取り時の地温が高かった。
結果的に早掘り未熟傾向となっていた。十分な低温積算がなされていなかったのに、「凍結保管」に変えてしまった。マイナスに落とせば低温積算(休眠打破+葉枚数分化、蕾数を決める分化etc.)効果は、50~20%くらいの割合にまでプラスサイドの温度処理効果より少なくなってしまう。(又は時間がかかってしまう。)
14年産N.Z産コパニ立枯症の主要因は、ウイルス+低温積算不足と考えている。どちらか一つ問題が少なければ…。
- 2) 11月25日定植分については、「品質調査」の色彩が強まり、「ロット毎」の特性調査には至らなかった。(Plamv+LMOVが話題の中心。)
- 3) 1月26日定植分については、複数回の調査、特に4月20日に実行した最終調査の時点で、様々なことが確認された。(当日は沖永良部鉄砲百合組合の皆様が池田町において会議を開催されていたので、多くの輸入業社他社様も確認できたはず…。)
- 4) 前半の低温時期作型で、Plamv+LMOVが確認されたロット・品種で、2回目の作型では発症が確認されない。(マスクできた…。)
- 5) 予測した通り、早い作型向き球根産地・遅い作型向き球根産地、大きな品質格差・生育状況差が生まれた。
その差は想像していたよりはるかに大きかった。やはりコンディション別球根流通はどう考えても必要でしょう。
『まるで別品種!』⇔『この考え方を普及させなければ…。』

百合は品種毎に、向き不向きの切花作型がある事は、今やほとんどの切花産地の皆様が、承知してくれていると思います。

北半球産同様、むしろ南半球産の方がさらに球根及び球根生産地の特性を掴み、消費する(球根を定植す

る) 各県各作型に合わせた球根導入を確立していかなければ、と益々思いを深めました。

今回の試験栽培を視察した、殆どの輸出入業社の方々に確認していただけたと思います。

15年産南半球産もこの比較試験は継続いたします。

より大勢の方々から、ご自身の目でご確認いただけたらと思います。

2014年産 北半球産試験栽培

新潟県魚沼市におけるテスト栽培

1) 14年産ワヅガ産(NL産)は、掘り取り時及び10月・11月の地温が高かった。

まるで14年産南半球産NZ産とほぼ同様な傾向を示している。この事は現場レベルでの作況及び事故傾向からもはっきり窺える。

休眠打破の遅れ、早期作型での作のバラつき、早掘りロットほど輪付きが悪いetc. …。

2月下旬以降定植作型では、揃いは良くなってきた。加えて輪付きも良くなったように見える。

しかしながら早くにマイナスサイドに温度を下げてしまったロット(準備が出来ていないロット)は、成績がよろしくない。(一部ソルボンヌ2N、一部コンパニオン、一部ハリアetc.)

例年よりも早くから青じ、リン片腐敗が確認され始めた。ブラックノーズについても同様で、例年より発症時期が早まっている様子。晩秋期の圃場から掘り取る前に芽が出来過ぎているのに、低温積算が足りない…これは本当に保管管理が難しい…。今後の切花作型についても大変心配している。

2) A.H/L.A新品種については、大変収穫の多い年となった。近い将来主力品種の変更がおきるモノと確信しています。

新しい注意点としてクローズアップされてくるのは、球根農家が「12/14・14/16サイズ」を中心に球根栽培を行っているのか?又は、「16/18・18/20サイズ」を中心に球根栽培を行っているのか?品種毎・農家毎の見極めが重要になりそう。

設定される掘り取り目標中心サイズにより、球根栽培定植密度、その他が変わってくる。

この事により、小球サイズの品質不良等が引き行されるケースがある事を予測しながら、仕入れなければならないと思う。

3) O.T系

*ヒット作は少なかった様子。その一方、既に紹介されている品種の使われ方が認識され、広く普及できそうな雰囲気を感じている。

*隔離栽培温室内では、5年後を見据えた品種が紹介され始めた。今日現在流通している品種と比べれば、画期的に進歩している様子。

*L.Aが市場に紹介されて約25年の時が経過している。

最初のO.T系が紹介されてからもう少しで15年経つ。5年後で約20年…。そろそろ出てきそうですよね!!

4) O.H系

*ピンク系・赤系には目新しさが無かった。

*白系では、オブラカ・リアル・プレミアムロッドタイプが消費される市場用、酷暑期生産・酷暑期切花流通用品種が3品種。クリスタルランカタイプが1品種、ハリアタイプが2品種。到花日数はやや長い、コンスタンタイプが2品種。

いよいよ品種更新できる可能性を感じる品種が確認された。

既に1~6年前に試験導入をされた品種、その使い方を見極めがついてきつつあるように感じた。

白系については品種が豊富になって来ている。80年代後半~90年代中盤では普通にあった事で、近年ではあまり感じていなかった事ですが、再び「**品種戦国時代**」に入ったと感じています。

白系で勝ち抜くポイントは、品種特性把握、品種特性と切花作型が一致しているか?など、いわゆる適地適作的品種の3つがセットにならなければいけない時代に入ったと感じた。良い品種でも切花作型が合っていないければ…。

※これって『コンディション別球根導入』と全く同じ事だと思いませんか？

ハバリアだけで何系統を使いこなすのでしょうか？この事の必要性は…実は切花品質向上だけが目的ではない…。どうやって球根生産を守る…。

既にL.Aハイブリッドでは、自然に行われている作型別品種導入…。

産地作型別主要品種を設けて中長期出荷を実現していく。(従って、同一花色でもシーズン毎に品種が異なる。)

日本の様に四季がはっきりしている国・各地の気象条件が違う国では、作型毎の品種系統の使い分けが必然だと考えられる。

最近では、「新品种の導入」は、どちらかと言えば生産者の皆様が球根業社からの照会で品種を選び、市場の方々から評価を受けるという形が一般化してきていた。

又、ネットの普及が大きく進んできている為、品種情報の拡散も以前に比べたら圧倒的に早く広域に広がりやすくなっている。

結果として、「商品」としての評価が先行してしまい、「生産性についての研究」・「物流耐性についての研究」が間に合わず(球根生産とのすり合わせ)、特に初夏から初秋にかけての酷暑期に物流事故が起きやすくなっている様に感じている。

百合切花に関わらず、全国的に「農産物の物流環境」は相当厳しい時代に入ってきた。

先日北海道出張時にもはっきりと確認できたことだが、「4日目販売」を検討した時、従来の主要品種の他にお勧めしていくべき品種は…今までの「冷涼な気象条件で生産できる品種」だけではなく、やはり「物流耐性」を考えた品種の検討・照会を行わなければと感じた**(陸送産地が多い地域、夏場の産地がずっと抱えている課題ですよ！)**。

北海道でも必要な品種は、本州中間地帯の酷暑期対策用品種になってくるのでは？

なぜなら…

過去の主要品種がほとんど本州中間地帯のそれと重複しているのは、結局それらの品種の総合的な品種特性が必要で、切花農家・市場に評価されたのだろうと考えられるから。

現在の主要品種・各球根生産国の生産状況は、東京オリンピックを迎える2020年までには大きく変化してくることが考えられる。

これは、日本の球根消費状況と言うより、世界の球根消費状況の影響から…。

2013~2016年頃までに準備してきたことが、2020年以降の球根流通の主力となってくる可能性が高い。

ここまでにどれだけ日本市場向けのO.H百合を、こういったレベルの球根生産農家に作っていただくかの準備を進めなければ…。

オブラカだけは考えていましたし、対策も立てました。

気が付いたのが4~5年前…実際に問題がクリアになってきたのが昨年あたりからはっきりと…。

可能性を感じる品種がほとんど見い出せていなかった…。

ようやく今年になって明かりが見えてきたところ…。

今や、当社が関わる試験栽培は、新潟県内で4カ所計5作型。岐阜県にて1カ所計2作型。

Vletter社/MAK社/W.F社(15年産よりV.Z社、D.J社も参加)養成球試験が新潟県内で1カ所1作型。

育種会社が1998年から実行している日本国内での独自試験のお手伝いをしている試験地が、新潟/埼玉/岐阜県内にて、3カ所6作型。

これだけ試験しても結果は…何%の品種が生き残ってきたのだろう…。

出来ない事を調査確認する事も重要な試験ですけどね！

15年7月の開花試験調査は、まだ続いています。

台風が上陸していますので心配しておりますが、魚沼市内にて本年から実行している「新潟セレクションリブプロジェクト」＝「魚沼隔離」(オランダ人はこのニックネームでプロジェクト名を呼んでいます。)

O.T及びO.Hその他系統がようやく開花し始めました。

やはり土耕栽培は違います。当社隔離栽培(温室内)とはまるで別品種が咲いている様な違いです。(品質は魚沼隔離が圧倒的に上！)

たった2～3週間しか開花期に差が無いのに…定植時5～10℃、開花時25～35℃…。

今回初めて設定した試験区ですが、この試験方法が育種会社/輸出会社からは、圧倒的に支持され、高い評価をいただきました。

情報量が違います。

向こう3～5年間継続してほしい。オランダ側から試験栽培の為に資金協力提案すら頂きました。生産および調査に関わった方々の苦勞が必ず実を結んで欲しいと願っています。(若手切花農家！)

来年は、参加してくれる育種会社が増加してくる様です。(遂にRLも…。良かった！)

今年は手ごたえのある年となっています。

買参人の中から育種や開発に興味を持ち、関わってくれる方々が出てきた事も嬉しいニュースです。新しい時代に向けた準備がこうして始まっているんだなあ～と思います。

ところで…、

八重、O.H系…14/16サイズの球根(球根単価45～55円くらい)で、草丈70～80cm、2～4輪で市場価格¥300-前後。

花保ちは少なくともバラ・ダリアよりは長い。ユーストマと比べたら…。(花保ちの良い品種の登場を待つ！)

今日現在の、O.H/O.T市場流通本数が、90,000,000本くらいとして、オランダの流通数が約5,000,000～6,000,000本とした時…、八重O.H/O.T系市場は、どのくらいまで育ってくるのでしょうか？

その時シングルO.H/O.Tとは、完全別カテゴリーの商品化は出来るのか？

八重O.Hは、通常の百合切花流通と分けて考えていきたいですね…。

八重O.H系の普及は、大球多花性の開発と同時に、小球サイズからの切花生産…成功させたいですね！(日本市場は、シングルO.H/O.T系でこの取り組みに失敗している…。12/14.14/16を経営中心サイズにおいたマーケットを作れなかった。オランダ・中国・ベトナムは、今のところ成功している様子。)

よろしくお願ひ致します。

ご不明な点等、お問い合わせください。



以上 森山 隆